

かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしやかいぎ  
川崎市外国人市民代表者会議  
(第15期 第2年 第3回 第1日)  
ぎじろく  
議事録

1 日時 2025 (令和7) 年 10月12日 (日) 午後2時00分～5時00分

2 場所 川崎市国際交流センター

3 出席者

(1) 代表者 19人

(2) イトウ ユリカ キヤレン、ウイ スー ケット、鎌田 ファチマ、ギーゼック  
フロリアン、金 寿瑛、単 望舒、鄭 載勳、スリニヴァサン スチエタ、スン  
チン グアン、朴 慧珍、ヒラノ ジョイミ、ヒリスとば ガブリエラ、  
プストフスキー アナスタシア、古谷 史子、ボラニス キピョートル、楊 子宜、  
ラハマン ジアウル、李 詞、ルイス ジェームス

(3) 事務局

小出 課長、松長根 課長補佐、藤澤 係長、堤 職員、須藤 職員、河田 専門  
調査員

4 傍聴者 28人

5 会議次第 (公開)

(1) 開会

(2) 事務局説明

(3) 議事

(4) 事務連絡

(5) 閉会

【全体会】

イトウ委員長「それでは、これから川崎市外国人市民代表者会議、2025年度第3回第  
1日を開催する。今日は、ハン委員、張委員、ヨザ委員、ブー委員、ボソ委員、ポカレル  
委員から欠席連絡があった。まず、日程と配布資料について事務局から説明をお願い  
する。」

(事務局河田専門調査員より資料に基づき説明)

イトウ委員長「前回のまとめについて事務局から説明をお願いします。」

(事務局河田専門調査員が資料1に基づき説明)

イトウ委員長「何か質問があるか。(なし)では、議事に入る。事務局から説明をお願いします。」

(事務局河田専門調査員が資料2に基づき説明)

イトウ委員長「何か質問があるか。ここでオープン会議の広報に識字学級に行った方からコメントをいただきたい。」

朴委員「初級、中級、上級クラスそれぞれで日本語の理解力が異なるので伝え方は読み上げ原稿に頼らない方がよい。」

楊委員「同感である。日本語理解力がまちまちであり、全員によく伝わったか心配がある。」

単委員「同感である。事前に配布しておいて、現場のボランティアの先生からあらかじめ説明してもらったらよかった。行政による日本語の学習支援制度が不足しているという意見を聞いたので、次期会議の参考にできたらと思う。」

フロリアン委員「同じく読み上げ原稿に依らないで説明したらよいと思う。また事務局が他の行事の宣伝もやっていたのは、混乱するから別にした方がよい。」

単委員「一点提案であるが、来年識字学級に行くとき、代表者会議のメンバーから一日だけボランティアで先生をやらせてもらって、じっくり受講者と交流しながらオープン会議の宣伝に行く効果的だと思う。」

イトウ委員長「ありがとうございます、では議事に戻る。オープン会議の司会進行を希望する方、挙手をお願いします。プストフスキー委員とルイス委員でよろしいか。(異議なし)では決定する。次、受付を希望する方、挙手をお願いします。ポラニスキ委員、楊委員、李委員、鎌田委員、古谷委員、ヒラノ委員、ジアウル委員、スーケット委員でよいか。(異議なし)では、次の議事に移る。事務局から説明をお願いします。」

(事務局河田専門調査員より資料3に基づき説明)

イトウ委員長「かわさき市民祭りに参加希望の方挙手をお願いします。(12人)では、インターナショナルフェスティバルに参加希望の方挙手をお願いします。(12人)」

スーケット委員「質問がある。本日欠席者については、どうふりわけるか。」

事務局河田専門調査員「事務局から個別に照会して追って共有する。」

イトウ委員長「では、次に1月17日のポッチャ大会に参加の方挙手をお願いします。スリニヴァサン委員、プストフスキー委員、ルイス委員、ポラニスキ委員、スーケット委員、単委員、フロリアン委員でよいか。では、こちらで決定する。次に移る。事務局から説明をお願いします。」

(事務局河田専門調査員より資料4に基づき説明)

イトウ委員長「では、年次報告書の作成方法について案のとおりでよい方は挙手をお願いします。 (全員挙手) では全会一致で決定とする。それでは、部会審議に移る。全体会の再開は、16時40分とする。」

### 【多文化社会部会】

鄭副部長「部会長が不在のため、私が司会をする。それでは部会を始める。事務局から説明をお願いします。」

(事務局小出課長より資料5に基づき説明)

鄭副部長「何か質問があるか。(なし)では議事に入る。」

スリニヴァサン委員「フレンドリーアドバイスであるが、データはグラフで示すとわかりやすくなると思う。」

鄭副部長「質問がある。そもそもこのチャートが必要な理由は何か。日本で生まれた場合は外国籍であろうとも必要なタイミングで情報はもらえる。日本で生まれた子どもではなく、学年と途中で来日した子どものための情報とするということか。そのようなものを作成して多言語にして配布したいという主旨か。」

ルイス委員「日本の教育制度の概要を説明するような資料を提案したいという意味だ。」

朴委員「年齢と学年の相関図があるとよいという話だった。」

鄭副部長「理解した。ではこれで進めることでよいか。(異議なし)では次、外国につながる子どもの進路に関する情報リーフレットの多言語版を外国につながる子どもとその保護者に届くように学校において活用する。活用する場所や人は、国際教室、巡回指導、日本語初期支援員など。これについて意見があるか。」

スリニヴァサン委員「教室で配布するということは想定していなかったと思うがいかがか。もっと幅広い人に提供するため、区役所窓口やウェルカムセット入れるという話ではなかったか。」

鄭副部長「事務局から説明をお願いします。」

事務局小出課長「周知する場所や人について、保育園、幼稚園、区役所、外国人市民の地域の支援者等というところに追加するかたちになろう。学校内でも他に活用場所がないか確認したい。」

鄭副部長「リーフレットを活用する人が学校でどの役割をしているかという観点については、代表者会議メンバーでは知識不足であるため、事務局で説明を追記いただきたい。」

スーケット委員「国際教室という仕組みがよくわからないが。」

鄭副部長「事務局から説明をお願いします。」

事務局小出課長「日本語指導が必要な児童生徒に対して、週に数時間、本来のクラスから

離れて日本語指導を行う。そういう児童生徒が5名以上いる場合に設置されることになっている。」

古谷委員「公立の小・中学校すべてで対象である。」

スーケット委員「するとリーフレットの伝達が複雑にならないか。」

事務局小出課長「教育委員会に確認してみる。」

スリニヴァサン委員「この情報は学校に入る前に必要な情報であるから、就学後ではなく、就学前の対象者に配布することを考えるべきだ。」

鄭副部長「ありがとうございます、他にあるか。(なし)では、次の外国につながる子どもの進路に関する情報リーフレットを保育園・幼稚園や区役所、地域の支援者等に周知するに移る。意見のある方挙手をお願いします。」

スリニヴァサン委員「2と1は逆がよい。」

フロリアン委員「同感である。また、窓口や連絡先情報についても書いたらよい。」

鄭副部長「他に意見があるか。(なし)では次背景・理由に移る。外国人市民が増加していることの部分で意見のある方。(なし)では次、小学校までの子育て支援チャートがすでにあることについて意見のある方(なし)中学校と高校も増やすということを進める。次、外国人保護者は日本の学校のことや進路・進学についてよくわからず、情報を求めていることについて意見のある方。(なし)他の国とシステムが違うことを紹介しながら説明するとよいと思う。では、次、日本語が十分ではない外国人生徒は高校進学や卒業に問題があることについて意見のある方。(なし)では意見なしで次にいきます。」

スリニヴァサン委員「この時期では、意見というより、最終的に何を載せるかということを決める段階だ。外国人市民が増加していることはここでは直接関係ない。子育てしている外国人が増加見込みであることを示す情報の方が適切である。」

鄭副部長「外国籍の子どもがどれくらい日本で生まれているかについて追記するとよいということかと思う。他に何かあるか。(なし)では次、小学校に入学してから高校を卒業するまでの流れが保護者にわかるようなものがあるとよい。これについて意見があるか。(なし)では次に移る。事務局から説明をお願いします。」

(事務局小出課長より資料5に基づいて説明)

鄭副部長「ありがとうございます、では意見のある方。」

ギーゼック委員「事務局にウェルカムセットを持ってきてもらいたいと思う。ウェルカムセットの中身のレビューを定期的に行うことを提案としたい。また、情報のリマインド送付についても提案したい。」

鄭副部長「標準化というより、最新化とそれを継続させる仕組みづくりと通知方法とい

うこと。」

ギーゼック委員「まずウェルカムセットを原本を確認することだと思ふ。」

ルイス委員「事務局に依頼したい。オープン会議にウェルカムセットを一式持ってきてもらいたい。」

スリニヴァサン委員「議事として追加する段階にないと思ふ。今日中に提言としては決めておかないといけないと思ふ。」

ギーゼック委員「ウェルカムセットの内容を定期的にレビューしてもらふことを提案したい。ももとの話は、通知方法だったと思ふ。標準化のことではない。」

ヒラノ委員「要するに、ギーゼック委員は、ウェルカムセットについては、川崎市が全体でよく取り組んでいるのに、肝心の内容が外国人市民に伝わっていない点を指摘している。情報周知の観点で、どうやったら行政が出した情報が外国人市民に届くのか検討したいということ。だから、表紙として二次元コードのリストを添付することについても意見があったと思ふ。」

スリニヴァサン委員「同感だ。そもそもの話がどうだったか皆さんと認識を合わせたい。」

鄭副部長「事務局に確認したところ、ウェルカムセットについては標準化をすることで6月に多数決で決定しているという。他の新たな点について新たに追加することは難しい。」

ジアウル委員「しかし、先月、ウェルカムセットについて今日審議することにしたので、意見を出すことはできるはずだ。ということで、二次元コードの方がコストパフォーマンスの意味でよいだろう。また、定期的に内容のレビューを行うことも重要である。」

鄭副部長「では、ウェルカムセットを提言として扱うということでは、これも多数決で決めた方がよいか。」

朴委員「進路のフローチャートのことは、その情報を必要としている層が限られているから、ウェルカムセットはまた別のものとして扱う方がよいだろう。一方で、フローチャートも検索すると英語版でも様々なかたちで出てくるから、新しく作るのではなく、二次元コードで紹介することでよいのではないか。マグネットにその二次元コードを掲載するものを提案したらよい。二次元コードで飛ぶ先より上位のページツリーから更新したら二次元コードの更新も当面不要だろう。」

ルイス委員「ウェルカムセットの中に小冊子があり、その中に外国人市民が必要としているような情報の二次元コードリストがある。それよりはこれさえみたら大丈夫というような二次元コードをひとつ生成したら便利だろう。」

ギーゼック委員「その小冊子がウェルカムセットのなかに入っている区と入っていない区があったと思ふので、ウェルカムセットの封入内容のメンテナンスは必要なことだと思ふ。」

鄭副部長「自分の意見であるが、マグネットで特定の情報を目立たせるというアイデアはよいと思う。」

ルイス委員「同じ意見である。アクセスしやすくすると同時に、アピールになる。」

スリニヴァサン委員「まとめた方がよい、リマインド通知した方がよい、アピールのためマグネットにするという3点を提言にできるかどうか。最低限、区役所窓口を設置してあるというところを目標にするイメージかと思う。」

スン委員「標準例は作成した方がよい。標準例については、定期的なレビューのときの指標になる。」

鄭副部長「事務局と話しまして、6月にリマインドや標準化について議論して、標準化を取り扱うことにした。そして、10月にはウェルカムセットの標準化を提言にするかどうか決定する必要があるということなので、提言にすることに賛成する方は挙手をお願いする。(全員挙手)では、全会一致で決定した。」

事務局小出課長「これを基にオープン会議の資料を作成する。」

鄭副部長「時間になったので部会を終了とする。」

#### 【安心生活部会】

単部会長「では時間になったので、部会を始める。今日は提言案の確認である。次回はオープン会議である。提言案について一般市民にも共有して意見をもらうことになる。それを念頭に置いてもらいたい。」

ヒリストバ委員「質問がある。オープン会議について、前回の分科会での一般市民とのやり取りのとき、基本的には部会長と副部会長が主に回答し、他のメンバーも適宜応答するかたちで実施していた。今回がどのようにするか話し合いの時間を設けた方がよい。」

単部会長「事務局から説明をお願いする。」

事務局河田専門調査員「司会進行は部会長、タイムキーパーは事務局という役割分担を想定している。」

ヒリストバ委員「部会長だけが回答するかどうか。」

事務局河田専門調査員「部会長だけでなく、みなさんに回答いただくことを想定している。」

単部会長「部会長が回答者を複数名指名するようなかたちで、ひとつの質問に対し代表者が2名ほどで回答できたらよいだろう。」

単部会長「では、議事に入る。事務局から説明をお願いする。」

(事務局河田専門調査員より資料6に基づき説明)

単部会長「まだ今後も修正は可能であるが、とりあえずは提言案の題目にあたる部分で、ひとつは市職員に向けて、防災・災害と外国人市民について意識啓発を行うという

もので、もうひとつは外国人市民に対する防災・災害についての啓発を推進するとい  
うもの。提言案としては、このふたつでよいか、賛成いただける場合は挙手をお願い  
する。(全員挙手)では、全会一致で決定する。」

単部会長「では、前回会議でひとつめにあたる部分については、提言案の中にも含めるもの  
について審議したので、本日はふたつめについて審議していきたい。」

イトウ委員「防災関係の情報の周知の仕方の工夫として、マグネットに二次元コードを印刷  
して防災アプリのダウンロード画面に飛ぶようなものを提案したい。」

単部会長「基本的には防災関係の作成物は、ウェルカムセットに入れるという認識でいる。  
事務局から説明をお願いする。」

事務局河田専門調査員「新規転入の外国人市民に対して、日本の防災、自宅避難、について  
啓発するチラシを作成して、ウェルカムセットに入れるという意見、それと別途、防  
災訓練が何日にどこであるという穴あきのチラシを職員が活用できるようにする  
という意見があったという整理をしている。」

ポラニスキ委員「作成することはなくてよいのではないかな。すでにたくさん情報はあ  
る。通知方法の工夫に関する提案にしたらい。その意味でマグネットの案はよいと思  
う。」

ブストフスキー委員「私も新規で作成するという想定はなかった。マグネットはよいと  
思うが、コストパフォーマンスの観点で実現の可能性はどうか。」

事務局藤澤係長「そこまでコストはかからないかもしれない。実現には、どこの部署の予算  
を使うかにもよることだろう。」

イトウ委員長「外国人市民意識実態調査を勉強してきた。災害に備えるという項目で、備蓄  
しているかどうかには半数以上がしていると回答している。一方で、防災訓練に参加  
したことがあるかで「ある」と回答した割合が約16%で、かわさき防災アプリを  
インストールしているかについては約7%となっている。周知方法にマグネットを  
取り入れることについて、絵が見えないからやらないというのはよくない。」

事務局河田専門調査員「ところでマグネットに載せる二次元コードでどの情報に飛ぶこと  
を想定しているのか。」

イトウ委員長「防災アプリを想定している。」

ヒリストバ委員「マグネットに印字した二次元コードで防災アプリに飛んでもらうとい  
うのは、提言として弱いのではないかな。作成した成果物を出すような提言にしないと  
恥ずかしい。私がイメージしているのは、既存の情報を二次元コードリストを作り、  
それを掲載したページに二次元コードで飛ばすようにしたらよい。作成したら、それ  
を代表者メンバーの母語に翻訳して提示する。」

ポラニスキ委員「単にアプリに飛ぶより、きれいにレイアウトしたリストの方が便利かもしれない。」

単部会長「マグネットか、シールか、紙かなんらかの媒体で既存の情報を見やすくするということと、ウェルカムセットに入れるということとふたつ出ていると思うが、個人的には、残りの時間でマグネットかシールかは審議している時間がないのではないか。」

ヒリストバ委員「11月～12月にかけて、代表者が事務局が案を作り、調整をしていけば日程的には可能だと思う。」

単部会長「事務局から危機管理本部に照会して実現の可能性を確認した方がよい。」

ヒリストバ委員「できないという理解だ。」

事務局藤澤係長「見本として100部だけ作成することであれば、予算的に可能ではないかと想像する。あるいはマグネットのデザイン案だけ、提案するとかやり方はあると思う。代表者のメンバーの感性で作成したものを提案したら面白いだろう。できたものを使ってください、という提言にしたほうが受け取ってもらいやすいということもあるだろう。」

金委員「載せる二次元コードはポータルサイトとアプリか。」

イトウ委員「また追って決めてもよいだろう。」

事務局河田専門調査員「では媒体はさておき、載せる二次元コードは既存の情報にするか、代表者会議で作成した新しいものにするのか。作成した場合、例えば、多文化共生推進課のHP上にリンク作成したら二次元コードは生成できるが。」

ポラニスキ委員「ヒリストバ委員の想定している作成物というのは、どのようなものを想定しているか。」

ヒリストバ委員「新規で作成するのではなく、既存情報の10項目くらいのリストアップを想定している。二次元コードを生成するためにHPを使うとその更新メンテナンス作業が発生する。それよりは紙の方が使ってもらいやすいと思う。」

単部会長「マグネットであれば二次元コードはひとつになりそうだ。複数のページの二次元コードリストなり、マグネットでひとつの二次元コードをつけて広く配布するなり、この方向性自体には賛成という方は挙手をお願いする。(8人挙手)」

ヒリストバ委員「どの情報を選択して載せるべきかも含め、オープン会議で一般参加者からも意見をもらったらよいだろう。」

単部会長「防災訓練に参加しましょう、という穴あきテンプレート作成に賛成の方は挙手をお願いする。(3人挙手)では、取り下げる。続いてビデオを作成するについて賛成する方は挙手をお願いする。(0人)では、取り下げる。」

イトウ委員「防災訓練に参加して、現場でピクトグラムが活用されているか確認したらされ

ていなかった。そういう実態を確認すべきと思う。」

イトウ委員長「研修についても一回こっきりでなく、継続的にすべき。」

楊委員「すでにある災害時支援ボランティアの養成セミナーに市職員の方にもっと参加してもらって、外国人市民向けのセミナーであるが、市職員と一緒に参加してもらって交流もはかる、防災出前講座ももっとやってもらうというような、すでにある取組を強化してほしいという言い方の提言がよいと思う。」

単部会長「今の意見に賛成の方、挙手をお願いします。(8人挙手)では、決定する。ありがとうございます。では、時間になったので部会は終わりとする。」

### 【全体会】

イトウ委員長「全体会を再開する。まずは、安心生活部会から報告をお願いします。」

単部会長「安心生活部会では、市職員に対して外国人市民と防災について啓発を推進することと外国人市民への防災意識啓発を推進することのふたつを提言案として、次回のオープン会議に臨む。」

イトウ委員長「ありがとうございます。では、次に、多文化社会部会の報告をお願いします。」

鄭副部会長「多文化社会部会では、子育て・教育で、進路のフローチャートについての提言とウエルカムセットの提言と両方を提言にすることに決定した。ウエルカムセットについては、標準例をガイドラインとして設定し定期的にメンテナンスを行うことを提案することになった。」

イトウ委員長「ありがとうございます。何か質問があるか。(なし)では実行委員会の報告に移る。」

スリニヴァサン委員「臨時会実行委員会では、分科会の運営方法について話し、70分のはなから提言案に関すること以外についても意見を言うことができる時間を設定することにした。タイムキーパーは事務局にお願いすることになった。」

イトウ委員長「ありがとうございます。では交流イベント実行委員会の報告をお願いします。」

スーケット委員「分担も大方決まっております、ご協力に感謝する。準備は順調に進んでいるので、引き続きよろしくをお願いします。」

イトウ委員長「今日の議事は以上である。」

### 【事務連絡】

イトウ委員長「事務局から事務連絡があればお願いします。」

事務局河田専門調査員「オープン会議の集合時間は12時であるので、申し添える。この後この場で、17時15分から第16期外国人市民代表者会議の募集説明会を行う。10月26日に外国につながる先輩に進路について聞いてみようというフォーラム

を開催する予定である。」

イトウ委員長「以上で今日の日程は終了とする。次回は、11月16日、日曜、ここ国際交流センターでオープン会議である。これで2025年第3回第1日の会議を終わりとする。」